

越前町議会・令和8年3月定例会一般質問【笠原 秀樹議員】

(令和8年3月5日 午前11時34分 開始)

- 13番（笠原秀樹君） 議長のお許しをいただきましたので、一般質問をいたします。
- 初めに、スポーツに励む児童・生徒に対しての関わり方についてお尋ねをいたします。
- 先日終了しましたミラノ・コルティナオリンピック、日本選手の大活躍に心から拍手を送りたいと思います。
- そこで、本町の各スポーツに活動されておられます児童・生徒に対しての質問をさせていただきます。
- 部活の指導が、平日は別ですが、日曜日・祭日等、先生方から、地域で活動されている退職された教師やスポーツ指導者に代わってきました。部活が学校から離れていっています。先生が指導されていた頃からも含め、部活を学校ではどのように思われているのでしょうか。勝手にやっているだけとの感覚なのか、それとも、部活に頑張る児童・生徒の皆さんは、一生懸命努力して、上手になりたい、強くなりたい、日々練習に参加していることに対して、先生方はどのように見られておられるのかお尋ねをいたします。
- 議長（藤野菊信君） 教育長。
- 教育長（大川伸介君） それでは、笠原議員のご質問にお答えします。
- 学校の部活動は、共通のスポーツや文化に興味・関心を持つ生徒が自主的、自発的に取り組む課外活動であり、顧問教員をはじめとした関係者の指導の下、学校教育の一環として実施しているものでございます。部活動は、生徒の成長を支える重要な学びの場であり、技能の向上だけでなく、仲間と協力する姿勢や粘り強さ、目標に向かって努力する力など、様々な資質、能力を育む場であると認識しております。結果だけでなく、日々の取組や成長の過程、そのものに価値があると考えており、学校生活の中でも生徒一人一人を励まし、しっかりと支えております。
- 地域移行後におきましても、学校は休日の活動を勝手にやっているだけと捉えることは決してありません。学習との両立や健康・安全面への配慮、相談への対応など、生徒の生活全体を見守る立場として、学校と地域が連携して、支えていくことが重要であると考えております。
- 教育委員会といたしましても、活動方針の共有、安全管理の徹底、相談体制の明確化などを通じて、生徒が安心して活動に取り組める環境づくりを進めてまいります。
- 以上です。
- 議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。
- 13番（笠原秀樹君） 子どもたちが一緒に活動することにより、チームワークが生まれ、部活を離れても学校内で人に対する思いやりが変わってくると思います。対外試合、当然チームの親御さんがバスや車をチャーターして、会場まで連れていきますという大きな負担もかかってきます。そういう協力があつてこそ、活動が成り立っていると私は思います。
- 試合の結果について、学校ではどんな報告をされているのお聞きをしましたら、全国大会のような大きな結果については報告をされるらしいんですが、その他の

結果についてはあまりしていないとお聞きをいたしました。これはなぜなのか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

部活動を通じて培われるチームワークや協調性、思いやりの心は、学校生活全体によい影響を与えるものであると認識しております。また、日頃より保護者の皆様の部活動へのご理解とご協力に対し、深く感謝申し上げます。

お尋ねの試合結果の周知についてですが、学校におきましては、生徒の学習時間の確保や大会の公共性、さらには個人情報保護といった観点から、それぞれの大会の性質に応じた周知の範囲や手法を判断しております。

例えば町内の一中学校を例に申し上げますと、報告対象とする大会は中体連を基本としています。結果については、終業式の前に全校生徒に向けて報告会を実施し、成績に関係なく、大会を通して得た課題や目標について発表しております。また、一斉メール配信システム「Home&School」での報告や、生徒玄関ホールにおいて表彰関係の掲示も併せて行っております。

中体連以外につきましても、学校だよりでの掲載で周知を行うなど、日々頑張る生徒たちの成長をたたえ、学校全体で共有することを目的として、実施しております。

町内の学校においては、試合結果をたたえることは大切にしつつも、日々の努力や取組の過程を重視するという教育的観点を踏まえ、周知の範囲や方法について判断しております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） この頃はあまり学校で全校集会というのがないんだそうですね。それで、私ら昭和の時代には、もう嫌というほど全校集会がありまして、長い時間立たされていて、倒れる人とか、そんなのもありましたけれども、そういう機会が少なくなったということもあるんでしょうけれども、今答弁いただいたように報告はされているということですので、私はそれで理解をしていきたいと思えます。

そこで、頑張っている児童・生徒の皆さんは何が励ましになるとお思いでしょうか。自分が一生懸命練習して、結果を出したら、認めていただける場所があることではないかと思いますが、これについてはどうお考えでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

頑張っている児童・生徒にとって励ましとなるものは、何よりも自らの努力や成長を周囲の大人や仲間が気づき、認め、言葉として伝えてくれることだと考えております。

議員ご指摘のとおり、一生懸命取り組み、成果を上げた際に、よく頑張った、成長したと評価される場があることは、次の挑戦に向かう大きな力となります。また、励ましは結果に限られるものではなく、日々の練習の積み重ねや仲間への支え、最後までやり抜こうとする姿勢といった過程での頑張りを認められることも同様に重要であると思えます。結果が思うようにならなかった場合でも努力が正当に評価されることで、自己肯定感や粘り強さが育まれると考えております。

学校といたしましては、今後も部活動や地域での活動を含め、児童・生徒の努力

と活躍をできる限り丁寧に取り上げ、成果を出した喜びを学校全体で共有し、称賛し合える風土づくりに努めてまいります。

教育委員会としても、児童・生徒の努力と成長がしっかり伝わる形での称賛や振り返りが各校で行われるよう、引き続き支援してまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） それでは、次に、越前町からオリンピック選手が輩出をされています。すばらしいことだと思います。当然、この人たちは小さい頃から続けてきたからこそ、今のすばらしい選手に成長したんだと思います。今、スポーツで頑張ろうとする児童・生徒さんが少ないなと感じますが、これに対してはどう思われますか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

越前町からオリンピック選手が輩出されていることは本町の誇りであり、子どもたちの憧れや目標になっていると思います。競技力向上の観点から言いますと、将来の大きな伸び代となることが期待でき、年少期からスポーツに取り組む環境を整えることは重要であると考えております。

スポーツに頑張ろうとする児童が少ないのではというご質問ですが、越前町スポーツ少年団における小学生の登録者数は令和7年度は258人で、平成17年度の470人と比較しますと、20年間で約45%減少しております。一方、全児童数に対する登録率で見ますと、平成17年度は32%で、令和7年度においても約30%を維持しており、この数字から判断いたしますと、子どもたちのスポーツに対する意欲や頑張ろうとする割合そのものが大きく低下したわけではなく、団員数の減少は、主に本町に児童数の減少が反映されたものと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） これ、オリンピック選手1人育てるのに、もちろん家族もそうですが、企業、あるいは団体等の努力というのは相当なものだと思います。ですから、やはりその人たちを少しでも、一人でも多く育てていく必要があります、また、それがずっとこれからも続けていかなければならないと思います。

今、私も登校の見守りを続けていますが、立派な体している子がいるんですね。そういう子たちがスポーツやってほしいなと本当に思うんですけども、AIの発展から、ゲームやらそれらに興じている人が多いのかなと思います。残念でなりません。私たちの小さい頃には、もう外で遊ぶ声のほうが大きく聞こえてきたんですが、今はもうそんな姿はほとんど見ないと、非常に寂しい思いもすると同時に、これからのスポーツに対して不安のあるところも感じるところでございます。

次に、えちぜんスポーツクラブの皆さんが今、懸命に地域スポーツの発展に努力をされておられます。これは、児童・生徒の皆さんも含め、町民の皆さんがスポーツに親しみ、そしてまた、新しいスポーツを楽しみ、健康長寿の町に思っていることだと思います。スポーツ少年団、これが支えになっていますが、越前町のスポーツ少年団がもしなくなったら、越前町のスポーツはどうなるのか、不安になります。既に人数が少なく、チームが組めないと言われてしまうとチームもあることも考えますと、不安でございますが、いかがでしょうか、お訪ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

えちぜんスポーツクラブは、地域住民の健康増進、豊かな高齢社会の創造並びに青少年の健全育成など、明るく、豊かで活力に満ちた地域づくりに寄与することを目的とした総合型地域スポーツクラブです。小学生を対象にした活動では、スポーツ少年団では経験できないソフトテニスやバドミントンに親しんだり、さらなる技術の向上に取り組むことができるチャレンジスクール、楽しんで競技に取り組むサークル活動などがあり、町外の子どもたちの参加もあります。えちぜんスポーツクラブの活動は、子どもたちの多様化したニーズに応える受け皿となっており、町として運営を支援しているところです。

一方、スポーツ少年団の状況としましては、令和7年度の登録団数は20団で、令和2年度と比較しますと6団体の減で、要因は団員数の減少による休部や合併によるものとなっています。スポーツ少年団は、競技力の向上とともに、スポーツを通じて、青少年の心身を健全に育成し、地域づくりに貢献できることを目的として設立されており、町としてその活動を支援することは大変重要であると認識しております。現在、町ではスポーツ少年団へ補助金を交付し、単位団の運営や指導者の育成を支援しています。また、令和7年度から、団員の確保に対する支援として、これまで各団がチラシ等で行っていた団員募集に加えて、メール配信システムを使い、保護者の方に直接情報を発信するようにしました。

スポーツ少年団がなくなったら、越前町のスポーツはどうなるのでしょうかのご質問ですが、仮に一部の競技で団の維持ができなくなったとしても、町として、子どもたちがスポーツに親しむ環境を途切れさせないということが重要であると考えます。今後は、町内単独でのチーム編成が困難な種目については、近隣市町との広域的な連携など、柔軟に検討を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 今、平日は別ですが、土日・祭日の児童・生徒のいわゆる部活の指導をえちぜんスポーツクラブの指導員の皆さんが携わっておられます。スポーツクラブの指導員の皆さん方も年を取られて、高齢化が進んでおられますし、これ、もし平日もということになりますと、またまた足りなくなってくると思うんですね、指導者が。

そんな中で、どうしても今、これからは、そうなると、やはり退職された先生方にお世話になっていくんじゃないかなと。えちぜんスポーツクラブの指導者に払う指導料なども増えてくると思う。当然これ、町もその辺のところを見ていってあげなきゃいけないと思いますので、先生方の中にもスポーツ指導を嫌がる人は少ないと聞きます。本当に指導したいんだという先生もおられますので、ぜひとも今後の、もし平日も、指導者がえちぜんスポーツクラブで担当していくということになったら、そういう先生方にも当然お願いをしてくるようになるんじゃないかなと思いますので、また、町からの支援のほどもお願いをしておきたいと思っております。

次に、丹生高校のホッケー部、これすばらしい成績を残されておられます。男女とも、全国最高位を続けてきているのも、やはり小さい頃からこの競技のために携わり、努力してきた選手の皆さんが今ある姿だと私は思います。

今後、こういう成績が途絶えてしまうことのないように、心配されることのないようにしていかなければならないと思いますが、どうお考えでしょうか、お尋ね

をいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

丹生高校ホッケー部につきましては、毎年すばらしい成績を残され、大学や社会人チームでの活躍につながっており、ホッケーに取り組みたいと考える小・中学生の目標になっています。

本競技は、昭和43年の福井国体開催から始まり、平成30年の福井しあわせ元気国体を経て、今日まで、町と関係者が継続して取り組んできたことにより、運営組織や指導者の育成、小学生から社会人まで、後進育成の土壌が築かれてきました。

今後も、町としてホッケー競技に係る環境の整備や支援を継続するとともに、全国大会の開催等を通じて、「ホッケーのまち」越前町としてのブランド力や一貫した指導体制を広くPRし、町外からの選手の誘致にもつなげていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） ありがとうございます。

丹生高校の成績を私はすばらしいと思います。大きな大会あるごとに私も現場で応援に行っていて、その活躍のすばらしさに拍手を送っているところでございますが、今、町外からの選手の誘致、これはこれですばらしいと思います。しかし、願わくば越前町出身の高校生の皆さんで全国制覇を続けられるというようなことが望ましいなと思っております。こうなっただけでほしいなと思っておりますが、うちの孫もアンダー15オーストラリア遠征に選ばれて、そのときに県外の選手と仲よくなりまして、熊本の県から、どうしても丹生高校でやろうよと誘って、今現在活躍をしてくれています。それはそれで私はいいいことだと思いますが、純粋にやはり越前町の選手で全国制覇してほしいなという思いも強くあるところでございます。

次に、アンダー12、アンダー15、そしてアンダー18、日本代表に選出される、これ本当にすばらしいことだと。本人の努力が報われた結果だと思っておりますが、学校にとっても、また町にとっても、こんなすばらしいことはないんじゃないかと私は思います。これからも毎年続けて選出される選手を育てていくべきではないかと思っておりますが、この件についてどう思われますか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

ホッケーに限らず、バレーボールやソフトボールでも、U12やU15に選出される児童・生徒がいらっしゃいます。日本代表に選ばれることは、学校にとっても、町にとっても大変喜ばしいことです。町では、激励金の交付や広報えちぜんへの掲載、保護者などからの申請による生涯学習センターへの懸垂幕掲示など、子どもたちの頑張り、応援しています。

今後も継続して、日本代表として選ばれるような選手を育てていくには、多くの子どもたちが様々なスポーツに触れる機会の提供や指導者の質の向上、施設整備など環境を整えることは重要であると考えます。町としましては、学校と連携し、スポーツ少年団やえちぜんスポーツクラブ、スポーツ協会と一体となって、全ての子どもたちがそれぞれの目標や個性を生かし、安心してスポーツに取り組める環境づくりに努めてまいります。

また、トップアスリートを目指す子も、仲間と楽しむことを主な目的とする子も、

互いの努力を共有し、認め合える環境を大切にすることで、次世代の選手が自然と育つ土壌を守り、育ててまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 福井新聞、2月25日のふくスポーツ欄で、もう教育長ご存じだと思いますが、ホッケーアンダー12オールスター戦、28日からと、もう終わったんですが、朝日小学校から8人の選手が選ばれています。これ、新潟県で1回目、それから2回目は京都で選考会がありました。120名の選手の中から朝日小学校の選手が8人選ばれたと。これ、町を挙げてお祝いをしてもいいんじゃないかなと私は思うほどなんですが、これは、日本の協会が将来のオリンピックの選手を目指す有望な小学生を発掘するという目的をもって、毎年行われているんだということでございます。

2月28日、3月1日、2日間、東京で交流戦が行われました。幸いにして、うちの孫小学校5年生ですが、選ばれて、じいちゃん、点数入れたよという報告をしてくれたりしました。よかったねと励ましたんですが、これらにつきましても、8人の選手の親がそれぞれ分担をして、東京へ2日間連れていっているんですよ。これも大変な費用がかかっているんです。そういうことも含めると、本当に1人の選手を育てるのに、地域ももちろんです。家庭も含めて大変な費用がかかるということもありますので、私、前の一般質問でスポーツ補助金制度を改めて見直しをしてもらいたいという要望もさせていただきました。今年度の予算には入ってはいませんが、これらも含めて、町に対してお願いをしておきたいと思っております。

それでは、最後の質問に入らせていただきます。

町長就任以来、1年がたちました。この質問に対して、打合せは一切行われておりませんので、どんな答弁が返ってくるか分かりませんが、その答弁の結果によって、私の質問もどんな質問になるか分かりませんので、あらかじめご理解をいただきたいと思っております。

それでは、まず、就任後の成果、これについてお尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） 令和7年度は、これまで当初予算などは概要でのホームページ掲載でしたが、当初予算書や補正予算書、決算書そのものを掲載するなど、町政の見える化に努めてまいりました。

あわせて、出前町長室や懇談会などを通して、町民の皆様の声を直接お聞きする機会を大切にまいりました。

また、通学支援補助の拡充、代替交通の運行開始、介護用品支給事業の拡充など、暮らしの基盤を整える施策を前に進めてまいりました。

それとともに、ふるさと納税返礼品の開発支援の新設やDXなどの取組も進めてきたところでございます。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 真新しいことなんてどこにあるのかと思うんですが、僕は議員になるときに何をするために議員になるんだと。これは、町民の皆さんの声を議員の一人として町政に上げて、自分の住んでいる地域が、町がよくなってほしいと、そういう思いで1期から今期まで続けてきました。これは、ここにおられる議員の先生方、皆同じ気持ちだと思います。

そんな中で、なぜ町長に今聞いたかというのは、前町長ではここが駄目だったん

だと、だから、町長選に挑戦をして、当選をしたらこうやるんだという大きな目標があったはずですよ。そうでなかったら、町長に立候補する必要はないんですよ。前の町長が一生懸命町民のためにやっていると思っていたら、立候補する必要は全くないんですよ、続けてもらえばいいんですよ。それが駄目なんだと判断をされたから、立候補されたんだと。町長になりました。この1年間相当な努力をされたとは私は思います。せつかく議員から町長に、これ全員協議会の場じゃないんですよ、本会議の場で、私は町民の皆さんにこんなことやりましたよと、その機会を私、提供しているんですよ。見える化、いろいろあるでしょう。ところが、真新しいものなんて、努力した結果なんて何一つ私は感じません、今の答弁では。これでやったんだと。町民の皆さん認めるかな、これ。非常に残念です。

それでは、今後の展望、どう思っているかについてお尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） 令和8年度の予算においては、公共交通の利便性の向上、健康増進のサポート、空き家対策や有害鳥獣対策、移住支援などの充実を図ってまいります。また、情報発信において、町民の皆様に必要な情報がより伝わるよう、広報などについて、予算面、予算以外の両面から充実を図っていく所存です。一つ一つ暮らしの基盤を整え、未来を育む取組を積み重ね、越前町に住みたい、住み続けたいと実感していただけるまちづくりを進めてまいります。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） どなたでも言うようなありふれた答弁としか思えません。どこが新しいのか、全く分からない。これ、私だけじゃないと思いますよ。僕は前の議会でも、前町長が閉じていた扉を私は開きたいと、集会でお話をされたという質問をしましたが、答弁になっていません。全くなっていなかった。

今回、改めてお尋ねをいたしますが、どの扉が閉まっていて、閉じていて、どの扉を開けたのか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） 通告の趣旨に沿って申し上げれば、先ほど答弁したとおりです。一つ一つ暮らしの基盤を整え、未来を育む取組を進めてまいりました。引き続き取組を積み重ね、住みたい、住み続けたいと実感していただける町を進めてまいります。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 残念ながらまともな答弁もできない、いくら聞いても駄目なんでしょう。これ、繰り返ししても時間が進むだけです。6月の定例会では、前の議会でも、町税収入のアップに、どれだけ増やすかということに対して努力をされ、3か月に一度報告をしてくださいという要望ですけれども、しました。6月定例会では、そういうことも含め、また、子どもの遊び場広場のプロポーザルの件も含め、在り方を聞きたいと思いますので、お知らせをしておきまして、質問を終わります。

（午後0時13分 終了）